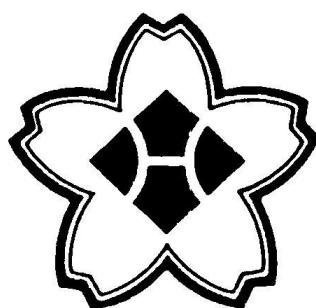


令和 7 年度
「運営に関する計画」



大阪市立矢田東小学校
令和 7 年 4 月

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 6 年度全国学力・学習状況調査から

- ・国語・算数ともに全国平均・大阪市平均を下回った。前年度まで縮まってきつつあったがまた少し開いた。国語科では、「B 書くこと」「C 読むこと」については全国・大阪市と比べると正答率に差はあるものの、他領域より近い値となった。算数科では「図形」が最も正答率が高かったが他の領域については全国・大阪市と比較すると大幅な差が開く結果となった。特に「データの活用」については 20% 近く下回っている。平均無回答率については全国・大阪市平均よりも多かった。これまで、全国平均よりも下回る結果が出ていたが、今年度は 2 教科ともに大阪市の倍近くの無回答率となってしまった。また、2 教科の第 IV 区分の割合をみると算数科において昨年度の倍の割合に増えている。

これまで、学校独自の取組として「矢田東漢字・計算クライミング」という漢字と計算に特化した、基礎基本の学習に力を入れて取り組んでいる。全国学力テストのような、応用・発展型の問題についてはまだまだ至らないが、まずはしっかりと学力の土台（基礎学力）を固めて積み上げられるようにしていきたい。

令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

- ・令和 6 年度は、50m走に重点を絞って体力向上に取り組んだ。5 年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男子は全国・大阪市の平均値とほぼ変わらない記録で、女子は全国・大阪市平均を上回ることができた。他には、男子では長座体前屈で上回ることができた。女子は握力・長座体前屈・20m シャトルランテスト・立ち幅跳び・ソフトボール投げの 6 種目で全国か大阪市のどちらか、もしくは両方の平均値よりも上回ることができた。男子についてはもとの実施人数が 10 人と非常に少ないと想定され、一人の記録で数値としてすぐに反映されていると考えられる。体力合計点は、男子が全国平均から約 3 ポイント、大阪市平均から 1.4 ポイント下回った。女子は全国平均より 0.72 ポイント、大阪市平均から 0.73 ポイント上回った。今後も普段の休み時間の遊び時間の確保であり、体育科の授業の質的な向上を目指したりしていくことが必要である。
- ・令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査のアンケートの「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問には、男女ともに肯定的に回答している率が大変高い（男子 100%・女子 90.4%）。ただ、「体育の授業は楽しいですか」の質問には、男子は「楽しい」の回答は 100% であったのに対して、女子は「楽しい」は 50% であった。「やや楽しい」を入れると 95% になるが、体育の授業の質的な向上は必要であると考えられる。

令和 6 年度大阪市小学校学力経年調査から

- ・3～6 年のすべての学年で昨年度と比較（※3 年生は昨年度の 3 年生との比較）したところ、市平均を上回ることはできており、4 教科の標準化得点は昨年度まで少しづつ上昇傾向がみられていたが、今年度は下がっている教科が多い。しかし、国語・算数において分析したところ、基礎問題においては 3・4 年生は昨年度の同学年と比べて上回っている。経年で比較しても 4・5 年生は基礎問題において向上している。基礎学力の定着が少しづつ見えてきていると考えられる。

- ・正答率が市平均の7割に満たない児童（区分IV）の割合は、令和5年度は72%であったが、令和6年度は74%と増加傾向にあり底上げが必要である。
- ・「読書は好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合は、4・5年生は90%に近い割合で肯定的な回答が見られるが、3・6年生が80%に届かなくなり、全体（3～6年生）としては78.2%と80%に至らない。しかしながら「読書が好き」という児童の割合は毎年増加傾向がみられている（児童アンケートでは85%）。

学校の教育活動全体から

- ・児童の「基礎学力」の定着と「自主性」に重点を置いた「矢田東漢字・計算クライミング」を継続して実施している。取組内容や評価方法などについて教員間で話し合い、児童の実態に合わせたもの、興味関心を持つものを模索し実施してきた。継続的に実施したことで成果が出はじめ、また課題を見つけることができている。今後も継続的に実施し、それぞれの学年での基礎基本の学力の定着を図っていきたい。
- ・児童の学習用端末の活用は日常的に行われ、使用回数は確実に増えている。様々なアンケートにおいても「タブレットやパソコンを使った授業は楽しいですか」という質問に対して肯定的回答は90%以上である。今後も継続して活用していくためにタブレットの活用方法について、全学年の工夫した効果的な取組を期待する。
- ・さまざまな読書活動の推進を行ってきたことで、児童が本に触れる機会が増え読書環境は大幅に改善されている。その成果は経年調査のアンケートだけでなく、学力テストや児童アンケート・保護者アンケートなども含めて確認した。全体的にみて、「読書が好きである」という質問への肯定的な回答は、概ね80%以上ある。毎年高学年の読書に対する意欲の、肯定的回答は少しづつ上がってきている。これまでの継続的な推進活動に成果がみられてきたと思われる。
- ・普段の休み時間の運動場の様子や、児童アンケート・経年調査などから、本校の児童は「運動が好き」な児童は比較的多いといえる。しかしながら、これまでスポーツテストでみられる数値的な結果は、大阪市や全国平均には届いていないことが多かった。「好き」であるが「結果」として表れていない要因としては、それぞれの動きについて「正しく」「正確な」動きが身についていないと考えられる。今後も指導者の指導力向上と体育の授業の充実を図って、児童の体力の維持・向上だけでなく、「体の正しい動き」についての指導法も工夫していきたい。
- ・児童のきまりに対する意識は高まっているが、通学帽子の着用や持ち物、身だしなみ等の学校生活における基本的なことについては、課題が見られる児童も少なくない。児童のひとりひとりの課題については、家庭的な背景も含めスクリーニング会議Ⅰなどで教員間で共通理解を図り、継続した指導を教員全体で行っていく。
- ・「仲良く」「人の役に立つ」「あいさつ」の3つについてはどれも概ねできている。児童の良いところを認めつつ、アンケートの結果だけでなく、実質も伴った成果として伸ばしていくような声かけや指導が必要である。
- ・これまでも、ゲストティーチャーを招いた出前授業や、学習の場や方法を工夫した体験活動を行うことができた。また、教職員の研修活動についても、授業力の向上に向けて公開授業を実施したり研究会に出向いたりして、さらに努めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合(R5:76.7% R6:80.0%)を 90%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R5:81.4% R6:86.7%)を、90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合 (R4:0% R5:9.68% R6:1.63%)を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校の児童の改善の割合 (R4:0% R5:50% R6:52.9 %)を、前年度より増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度(63%)より 15%増加させる(R5:88.4% R6:88.9%)。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童をいずれの学年も令和3年度(3年 58%・4年 66%・5年 72%・6年 77%) 68.2%より 10%減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も (R6:3年 0.92・4年 0.76・5年 0.76・6年 0.70より) 0.03 ポイント向上させる。
- 令和7年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合 (R5:48% R6:48.9%) を、35%以上にする。
- 令和7年度の経年調査や児童アンケートの「外国語（英語）は好きですか。」についての肯定的回答の割合 (R5 経 84%・児 84% / R6 経 86%・児 90%) を 90%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合 (R5:63% R6:68.5%) を 70%以上にする。
- 特に課題にあげるソフトボール投げと50m走を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、令和3年度(ソ:男 45.7・女 53.3、50m:男 44.7・女 51.2)より(T得点) 5ポイント増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習端末を活用して学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1※を満たす教員の割合を (R5:60.8%・R6:63.48%) 56.4%以上にする。

※教員の勤務時間に関する基準1・・・次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R6:85. 1%)を、88%以上にする。
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合(R6:86. 6%)を88%以上にする。
- ③ 令和7年度の大阪市学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(63. 8%)より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3年 0.966・4年 0.927・5年 0.933・6年 0.925)より 0.01 ポイント以上向上させる。
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3年 0.989・4年 0.918・5年 0.921・6年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。
- ③ 令和7年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合 (R 6:3 8. 4 %) を、2 %以上増加させる。
- ④ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 (R 6:6 8. 5 %) を 6 8 %以上にする。
- ⑤ 特に課題にあげる 50m走を、令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:9.6秒・女子:9.5秒)より 0.1 秒短縮させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60 %以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R6:85. 1%)を、88%以上にする。</p> <p>② 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合(R6:86. 6%)を88%以上にする。</p> <p>③ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(63. 8%)より増加させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。</p>	(1-1~4)
<p>指標</p> <p>児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、最も肯定的に回答する児童 (R 6:6 1. 6 %) を 6 3 %以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。</p>	(1-1いじめへの対応)
<p>指標</p> <p>児童アンケートの「友だちのいやがること（いじめや仲間はずれ）をしないように気を付けて行動できていますか」について、最も肯定的回答の割合 (R 6:7 7. 7 %) を 8 0 %以上にする。</p>	
<p>取組内容③</p> <p>「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。</p>	(2-1 道徳教育の推進)
<p>指標</p> <p>児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての、最も肯定的回答の割合 (R 6:6 6. 1 %) を 6 6 %以上にする。</p>	
<p>取組内容④ 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>年間を通して複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャー</p>	

による授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。

(2-2 キャリア教育の充実)

指標

児童アンケートや経年調査の「将来の夢や目標を持ってていますか。」についての肯定的回答の割合（児：89%・経：81%）を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

改善点

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.966・4 年 0.927・5 年 0.933・6 年 0.925)より 0.01 ポイント以上向上させる。</p> <p>② 令和 7 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.989・4 年 0.918・5 年 0.921・6 年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。</p> <p>③ 令和 7 年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合 (R 6: 38. 4 %) を、2 %以上増加させる。</p> <p>④ 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 (R 6:68. 5 %) を 68 %以上にする。</p> <p>⑤ 特に課題にあげる 50 m走を、令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子: 9.6 秒・女子: 9.5 秒)より 0.1 秒短縮させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。</p> <p>(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度 (3 年 0.966・4 年 0.927・5 年 0.933・6 年 0.925) より 0.01 ポイント以上向上させる。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。</p> <p>(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 0.989・4 年 0.918・5 年 0.921・6 年 0.906)より 0.01 ポイント以上向上させる。</p>	

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。

(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)

指標

児童アンケートや経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。(友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできていますか。)」についての、最も肯定的回答の割合(児:65%・経:38.4%)を65%以上にする。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童のそれぞれの学年での基礎学力の定着を図る。

(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)

指標

「矢田東漢字・計算クライミングパワーアップ週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備・教材教具を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。

(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

指標

児童アンケートや令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合(R6:児80.6%・全国体力63.3%)を75%以上にする。

取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】

全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実(体力づくり)を図る。

(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

指標

1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、50m走の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の各学年の全国平均より向上させる。

取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】

学級文庫の整備や、教職員が学校図書館司書と連携した読書活動の推進を行い、児童の読書意欲の向上を図る。

(8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)

指標

児童アンケートや経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合(R6:児86.8%・経78.2%)を85%以上にする。

取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】

「令和7年度給食における食に関する年間指導計画」に則って、給食指導や栄養指導等を通して「食べ物と健康」のかかわりに対して理解を図り、児童の生活習慣の改善を図る。

(5-2 健康教育・食育の推進)

指標

児童アンケートなどで「給食の食材が持つ栄養（三色食品群）を意識して食べている」についての肯定的回答の割合（R6：87%）を85%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

改善点

(様式 1)

大阪市立矢田東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く〕 (R6:14.0%)</p> <p>② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ※を満たす教員の割合 (R5:60.8%) を 60 % 以上にする。</p>	

※教員の勤務時間に関する基準 1 ・・・次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 タブレットやノートパソコンなどの ICT 機器の効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。 (6-1ICT を活用した教育の推進)	
<p>指標</p> <p>児童アンケートや経年調査の「タブレット端末（デジタルドリル）を使った授業は楽しいですか。」についての肯定的回答の割合 (R 6:児 94.6%・経 73.9%) を 80 % 以上にする。</p>	
取組内容② 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。 (7-1 働き方改革の推進)	
<p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60 % 以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
改善点	

